

世界遺産アカデミー認定講師 File No.26

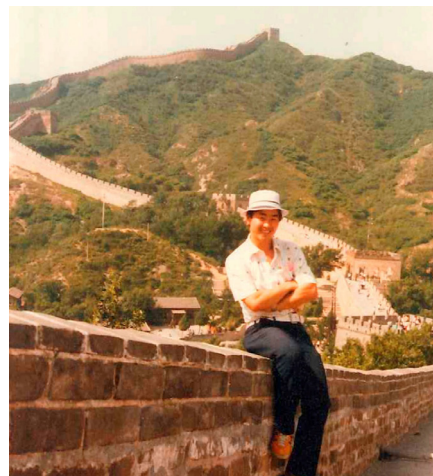
このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第26回の今回は、大学での検定ガイダンスや自治体の生涯学習講座だけでなく、ご自身の会社内でも世界遺産検定対策勉強会を実施され、多方面でご活躍のWHA賛助会員の尾坂雅康(おさか・まさやす)さんです。

——自力で知ることが、世界遺産の見聞を深めてくれます。

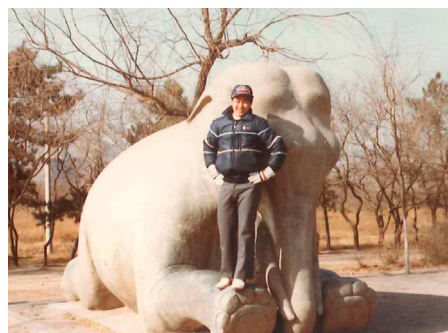
世界遺産との出会いは、1974年の学生時代。小田実著『何でも見てやろう』に刺激され、ヨーロッパを1カ月半、行き当たりばったりの貧乏旅行した時です。携帯電話、クレジットカード、『地球の歩き方』は当然ながらなく、持参したのは、1ドル300円当時の東京銀行のトラベラーズ・チェックと、『ブルーガイド』、トーマス・クック社の『時刻表』、身の回り品。言葉もわからず、パリ到着後、身振り手振りで貧乏宿を探しました。乗った列車は、目的のハンブルクではなく、ミュンヘンに到着。地ビールを飲みフランクフルトを食べ、深夜営業の映画館で『ドラキュラ』を観て時間潰し。また、特急プエルタ・デル・ソル号では、パリからマドリッドまで行く予定が、ス

ペイン国境までの運行で、急いで荷物を降ろして下車。寝台列車は空気がなく、通りがりのスペイン人に席を譲ってもらいました。空腹の私を見かねて、お弁当を分けてくれた人、宿が満室の時には子供部屋に入れてくれた民家もあって、現地の人々の好意に、ずいぶん助けられました。当時はまだ“世界遺産”の名称もなく、文化財への保護・保全の概念が少ない時代で、『ミロのヴィーナス』や『モナリザ』、『最後の晚餐』などを間近で、手に取るように鑑賞することができました。

その後、訪問したギリシャ、インド、ネパール、北京師範大学への留学、駐在した中国などでの経験や、井上靖著『敦煌』や中島敦著『山月記』といった関連小説や、王維、李白らの詩詞などを読んだことで、見聞は深まりました。杜甫や斛律金の詠う世界を観るために青海省を訪れ、



「長城に至らざれば、好漢にあらず」
1970年代当時の万里の長城、
人々は革命や闘争に熱狂して観光どころではなかった



明の十三陵。後に世界遺産となる石像も、
当時は規制もない。訪れるのは外国人ばかり

唐の文成公主がチベットの吐蕃王に嫁ぐ際、かの地に別れを告げた標高3,500mの日月山にも登りました。シルク・ロードや玄奘三蔵の道を追い求め、敦煌では、今では非公開の石窟も鑑賞し、

トルファンでは、孫悟空を阻んだ火焰山に登り、王翰や岑参の詞が浮かぶ高昌故城と交河故城を堪能しました。泰山では、麓から1万2千段の階段を上り、道々の崖に掘られた碑を鑑賞しました。

本格的に世界遺産を勉強し始めたのは、航空会社から旅行会社へ異動した55歳でした。総合旅行取扱管理者や旅程管理責任者など、旅行業に必要な資格を数年で殆ど取得しましたが、いちばん難関だったのが世界遺産検定1級でした。2回連続で不合格となり、3回目は過去問題から時事問題まで傾向と対策を練り、ようやく合格。マイスターに臨んだ2015年7月は、趣味のトライアスロン(年間48レース参加)による腰と膝の不調で、手術・入院を繰り返していた時期です。全身麻酔を4回も受けました。実は2年ほど前まで松葉杖にコルセットで、自力では

階段も上がれず、ケア・マネージャー付き添いの要支援生活でした。この入院期間を最大限に有効活用し、勉強に取り組みました。世界遺産検定だけでなく、江戸文化歴史検定、中国の近・現代史の書籍も持ち込み、電気スタンドと原稿用紙、鉛筆、消しゴムを枕元に、規則正しい日常と食生活(当然、禁酒)で、最高の学習環境でした。消灯時間も大目に見てもらいました(苦笑)。

——負の経験から得られた強み

世界遺産講座で学生さんや、会社の後輩、現役をリタイアされた諸先輩方と交流を持って、世代を超えたお付き合いができるのは、嬉しいことです。認定講師として心がけているのは、世

界遺産を通じて、自分たちは異なる、文化、習慣、歴史のある人々を理解してもらいたいとの気持ちです。いま、中国から春節休暇で多くの方々日本を訪問、爆買いや爆食だけでなく、日本の地方都市を訪れて日本の文化・習慣・歴史に触れています。数年前、退職の挨拶に中国を訪問しましたが、現地では未だに、中国政府主導のニュース解説や抗日戦争を題材とした番組ばかりが流れています。偏見を持ちながら来日した中国人観光客は、衝撃とともに、日本の映像をSNSにアップするのです。異なるものへの尊重、そこに世界遺産運動の意味があります。私は、旅行業界の後輩や新人に、こう言います。旅行は世界最大の平和産業だと。なぜなら、平和があってこそ成り立つ産業で、お互いを認め合う仲立ちをする産業だからです。

検定対策講座では、まずは興味を持って、世

界遺産学習の入口に立っていただく。それから、知識を深めていただく。そのサポートが認定講師である私たちの役割でしょう。教える際は、過去の失敗も役立ちます。前述の1級不合格、トライアスロンとウルトラマラソンでの棄権に失格など、私の人生には「負の経験」が豊富です。成功には嘘があり、失敗には真実があります。平地で仰ぐ富士山は遙か彼方にありますが、1歩1歩進めば、頂上が近づいてきます。本当にきついのは頂上が見えてからですが、諦めずに歩くのです。世界遺産学習は、トライアスロンと似ているように感じます。まずはスタート位置に立ち、自分の可能性を信じる。奇跡は起きない、しかし、起こすことはできる。最後は、“頑張らないけれど、諦めはしない”の信条で、締めくくりといたします。



2016年9月「佐渡国際トライアスロン」では、
3年間で腰と膝を5回手術後、リハビリの末の完走